

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア		担当者	小林 千尋	
科目名		キャリアプランニング1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期	
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標		希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要		自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするもので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)						
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」					
第2週	ライフライン分析、キャリアパス					
第3週	「職業興味と職業適性」					
第4週	グループワーク「雪山で遭難」、「新聞タワー」					
第5週	自己分析①「ジョハリの窓」、「エゴグラム」					
第6週	自己分析②「ほめられたこと」、「良いところ見つけ」					
第7週	自己PR文をつくってみよう					
第8週	中間テスト(作文)					
第9週	企業研究・求人票を見てみよう①(求められる人材は)					
第10週	企業研究・求人票を見てみよう②(賃金、休日、社会保険など)					
第11週	企業研究・②(求人票を使って)求められる人材とは					
第12週	一般教養(社会人基礎、時事問題)					
第13週	一般教養(初歩のSPI)					
第14週	履歴書作成①(自己PR、志望動機以外を記入)					
第15週	履歴書作成②(自己PR確認、職種志望動機作成)					
第16週	履歴書作成③(期末テストに向けて)					
第17週	期末テスト 履歴書の作成					
3. 履修上の注意						
筆記用具を持参						
4. 使用教材(テキスト等)						
プリント教材						
5. 単位認定評価方法						
評価基準:絶対評価						
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容						
6. その他						

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	愛玩動物学Ⅰ		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。また、愛玩動物飼養管理士2級の取得を目指す。犬の健康チェックができるようになる。				
◆概要	犬猫の品種や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	愛玩動物飼養管理総論 伴侶動物の定義 終生飼養について				
第2週	伴侶動物の種類と歴史				
第3週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第4週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第5週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第6週	犬の歴史と品種 身体的特徴				
第7週	犬の歴史と品種 身体的特徴				
第8週	犬の歴史と品種 身体的特徴				
第9週	中間試験				
第10週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり・使役犬				
第11週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり・使役犬				
第12週	猫の歴史と品種、身体的・生態的特徴				
第13週	猫の歴史と品種、身体的・生態的特徴				
第14週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第15週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第16週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物飼養管理士2級テキスト 予備資料					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%					
6. その他					
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、犬と猫の歴史やルーツ、身体的特徴と飼育方法、犬の健康チェックの知識と技術、飼い主への適切な飼育指導など、実際の現場をイメージした授業を展開していく					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	生命倫理・動物福祉		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。				
◆概要	生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5つの自由を理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	動物愛護と動物福祉				
第2週	日本の動物保護事情				
第3週	動物虐待の種類				
第4週	日本の動物愛護団体				
第5週	海外の動物保護施設				
第6週	産業動物の現状とアニマルウェルフェア				
第7週	5つの自由				
第8週	中間試験				
第9週	実験動物の現状とアニマルウェルフェア				
第10週	3Rの原則				
第11週	展示動物の現状とアニマルウェルフェア				
第12週	常同行動				
第13週	環境エンリッチメント				
第14週	5つのS				
第15週	経済動物の現状とアニマルウェルフェア				
第16週	引退競走馬問題				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物飼養管理士2級教本 愛玩動物看護師の教科書 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師:海外における動物保護施設での経験を活かし、授業を実施する					

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	得地	
科目名	動物関連法規		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各法律と動物取扱業との関わりについて理解したうえで、公益社団法人日本愛玩動物協会主催の愛玩動物飼養管理士検定試験2級に合格する。 法律を通して人と動物の共生のために必要な配慮と行動を具体的に理解する。				
◆概要	動物や動物取扱業に関連するさまざまな法規について学ぶことで、動物取扱業者としての心得や人と動物の共生の在り方を理解する。 実際に法律が適用される場面等を紹介することで、法律を身近なものとして捉えられるようにする。 実在する法律について学ぶ前に、動物関連の法としてどのような決まりが必要だと思ふかを考え、自ら学べる場を作る。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	動物医療関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要				
第2週	法律概論 法の体系について、制定と改廃のしくみ				
第3週	動物の愛護及び管理に関する法律① 目的、基本原則、動物愛護週間、基本指針、動物の所有者・占有者の責務、飼養保管基準、第一種・第二種動物取扱業、動物販売業者、特定動物、犬猫の引取りと負傷動物、繁殖制限、動物愛護週間、虐待と罰則 等				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	前期中間試験				
第10週	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律/狂犬病予防法 目的、定義、規制/目的、対象動物、検査、罰則				
第11週	身体障害者補助犬法 目的、定義、補助犬の同伴				
第12週	廃棄物処理法/化製場法 等 目的、定義				
第13週					
第14週	野生動物等に関する法律および条約 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、自然公園法、文化財保護法 等				
第15週					
第16週					
第17週	前期期末試験				
3. 履修上の注意					
教科書と資料を併用し、愛玩動物飼養管理士2級に頻出される法律を中心に進めていく。 過去に起きた裁判の事例などを紹介しながら興味を持たせる。 定期的に確認小テストを行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛がん動物飼養管理士2級教本・課題問題集 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・欠出席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性、課題提出)20%					
6. その他					
動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物行動学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物の行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。犬と猫の発生源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。				
◆概要	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物業界の従事者が動物行動学を学ぶことは、動物の身体および心の健康の保持に寄与する。動物福祉の基本原則『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学び、専門職として求められる知識を身につける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	正の強化法				
第2週	オオカミからイヌへ				
第3週	イヌの本能・性格・気質				
第4週	学習の原理				
第5週	イヌの攻撃行動				
第6週	テリトリー				
第7週	強化子・弱化子				
第8週	中間試験				
第9週	強化のスケジュール				
第10週	古典的条件づけ				
第11週	オペラント条件づけ①				
第12週	オペラント条件づけ②				
第13週	恐怖の克服法				
第14週	犬の脳に関する原理				
第15週	トレーニングに関する原理・方法				
第16週	分化強化				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師: 海外における動物保護施設での経験や、問題行動解決の知識・技術を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物行動学2(犬種概論)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬種標準(スタンダード)や犬種グループ別の特性を理解し、また各犬種の歴史・成り立ち・性格・特長について学び、犬種に合わせた対応ができるようになる。				
◆概要	犬種の作出・改良目的、遺伝性疾患や犬種グループ、各犬種の性格上・行動上の特性やその理由について学ぶ				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	犬の純血種とインブリーディング				
第2週	犬種標準(スタンダード)				
第3週	犬種グループ(第1G～第3G)				
第4週	犬種グループ(第4G～第6G)				
第5週	犬種グループ(第7G～第10G)				
第6週	犬種グループ別の代表的な犬種(シェパード＆キャトルドッグ・使役犬)				
第7週	犬種グループ別の代表的な犬種(テリア・ダックスフンド)				
第8週	中間試験				
第9週	犬種グループ別の代表的な犬種(スピッツ・プリミティブタイプ)				
第10週	犬種グループ別の代表的な犬種(レトリバー・フラッシングドッグ)				
第11週	犬種グループ別の代表的な犬種(嗅覚ハウンド)				
第12週	犬種グループ別の代表的な犬種(愛玩犬)				
第13週	犬種グループ別の代表的な犬種(視覚ハウンド)				
第14週	犬種ごとの性格上の特徴～ブードル・チワワ～				
第15週	犬種ごとの性格上の特徴～ダックスフンド・ポメラニアン～				
第16週	犬種ごとの性格上の特徴～ミニチュアシュナウザー・ゴールデンレトリバー～				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師:海外における動物保護施設での経験や、問題行動解決の知識・技術を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	総合実習1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	実習における自身の課題の追求、動物業界に貢献し得る実習や研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。				
◆概要	実習と動物美容学での補足に加え、各個人の目的達成のための細かな学習を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	実習の流れ説明（マニュアル読み合わせ）・ペン字				
第2週	電話対応・ペン字				
第3週	道具の使い方・ペン字				
第4週	グルーミングの必要性と目的、グルーマー（トリマー）としての心構え				
第5週	グルーミングの流れ・犬の扱いについて・犬の保定と安全管理				
第6週	ペイジング、ドライング方法（目的 手順 注意点）				
第7週	ネイルケア、イヤケア、クリッピング（下腹部、足裏、肛門周囲）				
第8週	犬体名称・骨格名称・バイタルサイン				
第9週	中間試験				
第10週	シャンプーについて				
第11週					
第12週	グルーミング用語				
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	社会人としての心構え（接客・接遇マナー）				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
講義中の内容、を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。					
4. 使用教材（テキスト等）					
ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック					
ドッググルーミングブック					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%					
・中間・期末試験 70%					
6. その他					
講師：JAHTAが認定するDGS（ドッググルーミングスペシャリスト）として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。また、社会人として最低限のマナー、働き方について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 理恵子	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅰ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。				
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディーランゲージを読み取れるようになること。 QOL(生活の質)を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。				
2. 授業内容(週単位で記入)					
第1週	犬ってどんな動物 ハズバンダリートレーニングとは その必要性は				
第2週	犬のボディーランゲージを知ろう 犬の立場になって考える				
第3週	犬具の選び方 リードの持ち方と扱い方 犬との接し方				
第4週	年齢別(幼齢期・青年期・成犬期・老齢期)の接し方と扱い方				
第5週	ハズバンダリートレーニング ①				
第6週	ハズバンダリートレーニング ②				
第7週	ハズバンダリートレーニング ③				
第8週	ハズバンダリートレーニング ④				
第9週	中間試験				
第10週	ハズバンダリートレーニング ⑤				
第11週	ハズバンダリートレーニング ⑥				
第12週	基本トレーニング ①				
第13週	基本トレーニング ②				
第14週	基本トレーニング ③				
第15週	基本トレーニング ④				
第16週	基本トレーニング ⑤				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント 筆記用具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する					
6. その他					
講師: 愛玩動物看護師国家資格取得、JKC公認トリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	グルーミング実習基礎1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬の扱い・道具の扱いの他、掃除や接客方法など、グルーミングに関するあらゆる重要な基礎の習得。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、現場で必要となる接客(言葉遣い、立ち居振る舞い、身なり)に関する基礎を身に付ける。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	自己紹介・洗濯物について・身だしなみチェック・挨拶練習(受付練習)・道具の場所・GR室の使い方				
第2週	ホスピタリティ・受付練習				
第3週	カルテの出し方・受付練習				
第4週	ゲージの使い方・リードの付け方				
第5週	犬の抱き方・大型犬の扱い方・ブラッシング・爪切りの練習				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	グルーミング実習(BigPawお客様開始)				
第9週	グルーミング実習 中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎
科目名		グルーミング実習基礎2		必修・選択	選択
単位数	2単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を実際に行い、飼主に適切なアドバイスができる。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。			
◆概要		実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	自己紹介・洗濯物について・身だしなみ・マネキン組み立て・掃除の仕方				
第2週	受付練習・はさみ練習・リボン付け				
第3週	電話対応・ライン描き				
第4週	ブラッシング・シャンプー＆ドライ練習・カット練習(マネキン)				
第5週	受付練習・リボン付け				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	グルーミング実習(BigPawお客様開始)				
第9週	グルーミング実習 中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	動物美容実習基礎1		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。				
◆概要	グルーミング実習1で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	練習用マネキンの組み立て・ブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・片付けの仕方				
第2週	練習用マネキンのブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・受付練習				
第3週	練習用マネキンでハサミの練習・ライン描き・電話対応・受付練習・リボン作り				
第4週	シャンプー練習・ドライ練習・カット練習・受付練習・リボン作り				
第5週	受付練習・カット練習				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	トリミング実習(BigPawお客様開始)				
第9週	トリミング実習 中間試験				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	動物美容学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマーとしての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング犬種とグルーミング犬種について				
第2週	スタイルについて オーダーの受け方				
第3週	犬の皮膚と被毛				
第4週	グルーミング犬種（各部分カット）				
第5週					
第6週					
第7週	プードルのペット・クリップとショークリップについて				
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	練習キッドによるブラッシング、カット練習				
第11週					
第12週					
第13週	用語について				
第14週	道具について				
第15週					
第16週	金魚				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック					
ドッググルーミングブック					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20%					
・中間・期末試験 70%					
6. その他					
講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科コード	U1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	小林 山崎	
科目名	コンパニオアニマルケア実習1・2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	GR室・診療室他	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、基礎知識習得を計る。 動物の飼育・健康管理を責任を持って行えるよう知識・技術習得する。				
◆概要	グルーミング実習基礎1で学んだ基礎知識を活かしながら、保定法・足周りカットなどお手入れの基本を学ぶ。 学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	持ち物チェック・道具配布・掃除方法 保有動物のお世話				
第2週	電話応対・ブラッシング練習・実習室の使い方・道具の場所 保有動物のお世話				
第3週	各道具の使い方 保有動物のお世話				
第4週	受付練習 保有動物のお世話				
第5週	受付練習 保有動物のお世話				
第6週	受付練習 保有動物のお世話				
第7週	学校犬身内犬実習 保有動物のお世話				
第8週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第9週	グルーミング実習 保有動物のお世話 中間試験				
第10週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第11週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第12週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第13週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第14週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第15週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第16週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第17週	グルーミング実習 保有動物のお世話 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 動物飼育にふさわしい身だしなみであること。（アクセサリー類、ネイルは外す） 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 常に飼育動物の状態・状況への配慮し管理の徹底をはかる。					
4. 使用教材(テキスト等)					
グルーミング道具 ペットの飼養管理					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村 福澤 長瀬	
科目名	ドッグトレーニング基礎1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のための科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。 飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。 問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：トイレ				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：クレート				
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：社会化				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：遊び				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用：甘噛み				
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
犬と猫の問題行動の予防と対応 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・中間・期末試験 60%					
6. その他					
講師：JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	福澤 長瀬	
科目名	ドッグトレーニング基礎2		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:トイレ				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:クレート				
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:社会化				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:遊び				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:甘咬み				
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する 国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
犬と猫の問題行動の予防と対応 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30% ・中間・期末試験 60%					
6. その他					
講師：JAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定」や「文書デザイン検定」の検定合格を目標とする。 (受験級は各自の習熟度により決定する)				
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング				
第2週	プリンターの設定 文書作成 PC操作				
第3週	ワープロ検定3級の問題解法 個別問題演習				
第4週	ワープロ検定3級の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定3級の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定準2級・2級の問題解法 個別問題演習				
第7週	ワープロ検定準2級・2級の問題解法 個別問題演習				
第8週	ワープロ検定準2級・2級の問題解法 個別問題演習				
第9週	中間試験 ワープロ検定及び文書デザイン				
第10週	習熟度に応じたワープロ検定の個別問題演習 文書デザイン2級程度の問題解法				
第11週	習熟度に応じたワープロ検定の個別問題演習 文書デザイン2級程度の問題解法				
第12週	文書デザイン検定の問題解法 個別問題演習				
第13週	文書デザイン検定の問題解法 個別問題演習				
第14週	文書デザイン検定の問題解法 個別問題演習				
第15週	文書デザイン検定の問題解法 個別問題演習				
第16週	文書デザイン検定の問題解法 個別問題演習				
第17週	期末試験 (検定受験)				
3. 履修上の注意					
授業課題の提出あり(MIAファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日まで提出する。 課題が期日までに提出しない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
マイクロソフトWord 授業配布プリント 検定過去問題のプリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動することがある					
6. その他					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア		担当者	小林千尋	
科目名		キャリアプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期	
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標		キャリアプランニング1での基礎に基づき、希望する業種・職種で職を得る。				
◆概要		キャリアプランニング1の内容をフォローしつつ、再度確認したゴールを目指す。効果的で適正な就職活動を行うべく実務的な準備(履歴書作成、志望動機・自己PRの作成など)と、広い意味でのキャリア教育(職業観、ライフワークバランス、仕事と法律など)を学び、一緒に考える。				
2. 授業内容 (週単位で記入)						
第1週	前期末テストを振り返って(志望動機・自己PRを推敲)					
第2週	一般常識					
第3週	時事問題					
第4週	企業リサーチ①					
第5週	企業リサーチ②					
第6週	企業リサーチ③					
第7週	ビジネスマナー①					
第8週	ビジネスマナー②					
第9週	中間テスト					
第10週	電話対応①					
第11週	電話対応②					
第12週	面接①					
第13週	面接②					
第14週	履歴書、送付状、封筒の宛名書き①					
第15週	履歴書、送付状、封筒の宛名書き②					
第16週	就活手帳の活用方法					
第17週	期末テスト(求職票の作成)					
3. 履修上の注意						
筆記用具を持参						
4. 使用教材(テキスト等)						
プリント教材						
5. 単位認定評価方法						
評価基準:絶対評価						
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容						
6. その他						

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物健康管理学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬の健康上の異常にいち早く気づき、適切な対応ができるための身体検査の知識と手技を習得する。また健康管理の上で必須の衛生管理・予防獣医学の知識をつけ、犬や猫のQOLの向上に貢献できるようになる。				
◆概要	犬の疾病、消毒法や感染予防、健康管理について、ライフステージ別および部位別の特徴や注意すべき点を学ぶ。人獣共通感染症および、犬猫の主な感染症について学ぶ。 ワクチンや予防獣医療等、健康管理に必要な知識を身につける。緊急時対応(災害時含む)、グリーフケア等、動物の疾病や飼い主の心のケアに関わる基本的な重要事項について学ぶ				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	身体検査概論 トリミング前の全身のチェック 一般身体検査 トリミングによって移る病気				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週	中間試験				
第8週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第9週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第10週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第11週	清掃・消毒法				
第12週	清掃・消毒法				
第13週	ワクチンの基礎知識				
第14週	ワクチンの基礎知識				
第15週	ワクチンの基礎知識				
第16週	ワクチンの基礎知識				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う事					
4. 使用教材(テキスト等)					
早期発見わかる犬の病気 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う。					
6. その他					
講師:動物病院(小動物診療)における動物看護師としての実務経験を生かし、動物の健康状態の把握とトリミング中に配慮すべき事項、様々な病態における対応について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物飼養管理学Ⅰ（愛玩）		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標 愛玩動物飼養管理士試験2級の合格を目指す。					
◆概要 愛玩動物飼養管理士2級の受験終了まで愛玩動物飼養管理士試験対策を念頭に入れた飼養管理を学ぶ。					
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	愛玩動物飼養管理士試験対策(課題報告問題解きなおし&解説)				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
教科書と課題報告問題を併用し、愛玩動物飼養管理士の試験に出題されやすいポイントを主に取り扱っていく					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物飼養管理士2級テキスト 課題報告問題					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師:愛玩動物飼養管理士1級資格保持者。海外における動物保護施設での経験や、畜産現場での栄養管理の経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物飼養管理学2(栄養学)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	飼い主様から相談されることの多い、適正な食事内容、フードの与え方、肥満の予防など栄養に関する飼育管理についての知識をつける。				
◆概要	成長段階に合わせた適正な食事、フードに関する知識、必須の栄養素、肥満予防について栄養学の基礎を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	基礎栄養素(三大・五大・六大栄養素)				
第2週	犬と猫の食性の違い				
第3週	ペットに食べさせてはいけない食品・もの・原因物質				
第4週	ボディコンディションスコアについて				
第5週	肥満について				
第6週	エネルギーの種類				
第7週	エネルギー要求量の計算				
第8週	中間試験				
第9週	各栄養素について ～炭水化物～				
第10週	各栄養素について ～水～				
第11週	各栄養素について ～タンパク質～				
第12週	各栄養素について ～脂肪～				
第13週	各栄養素について ～ビタミン-脂溶性ビタミン～				
第14週	各栄養素について ～ビタミン-水溶性ビタミン～				
第15週	各栄養素について ～ミネラル-多量ミネラル～				
第16週	各栄養素について ～ミネラル-微量ミネラル～				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考テキスト(ペット栄養管理士テキストブック・ペット栄養管理士認定試験想定問題集) 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師: ペット栄養管理士資格保持者。畜産現場での栄養管理の経験を活かし、授業を実施する					

学科コード	T1・U1
-------	-------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村	
科目名	ハズバンダリー実習Ⅱ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標					
動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。					
◆概要					
犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディランゲージを読み取れるようになること。 QOL(生活の質)を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様へのアドバイスができるようになる。					
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ドッググッズの説明と使い方 ①				
第2週	ドッググッズの説明と使い方 ②				
第3週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう				
第4週	応用トレーニング ①				
第5週	応用トレーニング ②				
第6週	応用トレーニング ③				
第7週	応用トレーニング ④				
第8週	応用トレーニング ⑤				
第9週	中間試験				
第10週	応用トレーニング トリック ①				
第11週	応用トレーニング トリック ②				
第12週	応用トレーニング トリック ③				
第13週	応用トレーニング クリッカー ①				
第14週	応用トレーニング クリッカー ②				
第15週	応用トレーニング クリッカー ③				
第16週	問題行動対策 まとめ				
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント 筆記用具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する					
6. その他					
講師: 愛玩動物看護師国家資格取得、JKC公認トリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎
科目名		グルーミング実習基礎3		必修・選択	必修
単位数		2単位	授業形態	講義・実習	年次
総授業数(予定)		34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を実際に行い、飼主に適切なアドバイスができる。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。			
◆概要		実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎
科目名		グルーミング実習基礎4		必修・選択	選択
単位数	2単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を実際に行い、飼主に適切なアドバイスができる。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。			
◆概要		実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	動物美容実習基礎2		必修・選択	選択	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。				
◆概要	グルーミング実習2で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	トリミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	サロントリマー2級資格試験 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林 和愛	
科目名	動物美容学2		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	サロンの一日				
第2週	パピー、シニアのグルーミング				
第3週	歩様と骨格				
第4週					
第5週	シュナウザーについて				
第6週					
第7週	エアデールテリアについて				
第8週	中間試験				
第9週	Aコッカーにについて				
第10週	各犬種のトリミングポイント				
第11週	サロントリマー検定に向けて(マネキン使用)				
第12週					
第13週	ベアカットについて サロントリマー検定について 概要説明 過去問題と解説				
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	サロントリマー検定2級（筆記）				
3. 履修上の注意					
講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック					
ドッググルーミングブック					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験 70%					
6. その他					
講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科コード	U1
-------	----

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者 小林 山崎			
科目名			コンパニオアニマルケア実習3・4		必修・選択 選択必修		
単位数		2単位		授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)		34コマ		授業場所	GR室・診療室他	前・後期	後期
企業連携科目			実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要							
◆到達目標		グルーミングの基本作業をマスターし、基礎知識習得を計る。 動物の飼育・健康管理を責任を持って行えるよう知識・技術習得する。					
◆概要		グルーミング実習応用1で学んだ基礎知識を活かしながら、保定法・足周りカットの基礎知識を学ぶ。 学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。					
2. 授業内容（週単位で記入）							
第1週		持ち物チェック・道具配布・掃除方法 保有動物のお世話					
第2週		電話対応・ブラッシング練習・実習室の使い方・道具の場所 保有動物のお世話					
第3週		各道具の使い方 保有動物のお世話					
第4週		受付練習 保有動物のお世話					
第5週		受付練習 保有動物のお世話					
第6週		受付練習 保有動物のお世話					
第7週		学校犬身内犬実習 保有動物のお世話					
第8週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第9週		グルーミング実習 保有動物のお世話 中間試験					
第10週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第11週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第12週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第13週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第14週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第15週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第16週		グルーミング実習 保有動物のお世話					
第17週		グルーミング実習 保有動物のお世話 期末試験					
3. 履修上の注意							
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 動物飼育にふさわしい身だしなみであること。（アクセサリー類、ネイルは外す） 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 常に飼育動物の状態・状況への配慮し管理の徹底をはかる。							
4. 使用教材(テキスト等)							
グルーミング道具 ノートパソコン ペットの飼養管理							
5. 単位認定評価方法							
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%							
6. その他							

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村 長瀬	
科目名	ドッグトレーニング基礎3		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:トイレ				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:クレート				
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:社会化				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:遊び				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:甘噛み				
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する 国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
犬と猫の問題行動の予防と対応 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30% ・中間・期末試験 60%					
6. その他					
講師：JKCTリマールとして、また海外における動物保護施設での経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	総合実習2(ペットビュッフェ・DT)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物業界における自身の考えや行動をどう生かしていけるか、また何を習得していかなければならないのか、情報収集し理解を深めていく。コミュニケーション能力を高める。				
◆概要	自身の希望進路以外の業種においても、動物・環境との関わり方を調べ今後活かす。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ペットビュッフェ最終試作				
第2週	ペットビュッフェメニュー完成				
第3週	ペットビュッフェ完成プレゼン				
第4週	食品表示作成・商品名決定				
第5週	POP作成				
第6週	学校公開日振り返り				
第7週	ペットビュッフェまとめ				
第8週	振り返り・まとめレポート作成				
第9週	中間試験				
第10週	検定試験対策				
第11週	検定試験対策				
第12週	検定試験対策				
第13週	検定試験対策				
第14週	検定試験対策				
第15週	検定試験対策				
第16週	検定試験対策				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
動物業界におけるさまざまな職種、世界の動向など、普段から興味を持ちアンテナを貼り、情報を取得するように心掛けること。挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。他学科との共同制作のため、コミュニケーションを取り、円滑に進むよう心掛けること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考テキスト(ペット栄養管理士テキストブック) ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・試験点数50% 出席による評価20% 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%					
6. その他					
講師: ペット栄養管理士資格保持者。ペット調理実習の経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	動物業界研究1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	長野県内にある動物園・水族館を視察し、各園館の展示の特徴や違いを観察し、野生動物の福祉、環境エンリッチメントをについての理解を深め、未来の動物園・水族館のあり方を考察する。				
◆概要	長野県内10ヶ所の動物園・水族館を視察し、各園館の飼育動物・展示方法・環境エンリッチメントについて学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学外研修の概要・目的・長野県内の動物園・水族館について				
第2週	2025年6月14日(土) 松本市 アルプス公園				
第3週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第4週	2025年7月5日(土) わくわくどうぶつ王国				
第5週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第6週	2025年8月1日(金) 国営アルプスあづみの公園 水族館				
第7週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第8週	学外研修中間レポート				
第9週	中間発表				
第10週	2025年10月4日(土) 須坂市動物園				
第11週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第12週	2025年12月13日(土) 大町岳陽博物館付属園				
第13週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第14週	2026年2月21日(土) 小諸市動物園				
第15週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第16週	学外研修総括レポート				
第17週	期末発表				
3. 履修上の注意					
※現地集合現地解散(公共交通機関利用)					
◆訪問前・・・事前学習レポートで視察する動物園・水族館について調べる					
◆訪問後・・・実際に見聞きした内容をまとめる					
課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物園水族館研修日誌					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
試験発表50% 出欠席数 10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等30%をもって評価とする。					
6. その他					
講師: 講師: 海外における動物保護施設での経験や国内外の動物園・水族館の視察経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	飼育実習1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物における5つの福祉を理解し、学校飼育動物の適切な管理とチームとしての報連相ができるようになる。				
◆概要	学校飼育動物の日々の飼育管理を通して、各動物の生理生態を学び、観察力と責任感を養う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学校飼育動物のお世話				
第2週	学校飼育動物のお世話				
第3週	学校飼育動物のお世話				
第4週	学校飼育動物のお世話				
第5週	学校飼育動物のお世話				
第6週	学校飼育動物のお世話				
第7週	学校飼育動物のお世話				
第8週	学校飼育動物のお世話				
第9週	中間試験				
第10週	学校飼育動物のお世話				
第11週	学校飼育動物のお世話				
第12週	学校飼育動物のお世話				
第13週	学校飼育動物のお世話				
第14週	学校飼育動物のお世話				
第15週	学校飼育動物のお世話				
第16週	学校飼育動物のお世話				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(動物に負担がかからない作業ができているか) 60%					
6. その他					
講師:海外における動物保護施設での経験や畜産現場での飼育管理の経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。			
◆概要		クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週		一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等			
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示する					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする				
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	検定問題対策 個別問題演習				
第2週	検定問題対策 個別問題演習				
第3週	検定問題対策 個別問題演習				
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第9週	中間試験				
第10週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第17週	表計算検定（期末試験兼ねる）				
3. 履修上の注意					
課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する					
4. 使用教材(テキスト等)					
マイクロソフトWord,Excelを使用 検定過去問題のプリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:					
絶対評価を原則とする 出席10%、授業内評価(授業態度・課題提出状況)30% 中間または期末試験評価50%、授業期間中の検定取得への取り組み10% とする					
6. その他					
※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林・山崎・アシスタント	
科目名	総合実習3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ベーシックの重要性を再確認し、より良い仕上がりを研究し習得する。				
◆概要	後輩と共に実習を行うことにより、業務におけるコミュニケーションの取り方を学ぶ。 その中で新たな気づきを得て、心身の向上、技術の向上を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	実習室の使い方、掃除の仕方の振り返り・教示				
第2週	接客練習の振り返り・教示				
第3週	道具の使い方の振り返り・教示				
第4週	カット方法の振り返り・教示				
第5週	グルーミング手順の振り返り・教示				
第6週	グルーミング実習				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア		担当者	小林千尋	
科目名		キャリアプランニング3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期	
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標		希望する業種・職種で職を得る。サロンで役立つ英会話を少し。				
◆概要		キャリアプランニング1、2を踏まえて、就職活動、社会で働くことをより実践的に学習する。履歴書の自己PR、志望動機などをブラッシュアップし、労働者としての権利や義務の基礎を学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）						
第1週	就活方法、企業・求人情報の確認					
第2週	履歴書のアップデート、自己PRの確認、企業情報検索					
第3週	自己PRの確認、企業情報検索					
第4週	電話の掛け方、面接、送付状など確認					
第5週	サロンで役立つ英会話①					
第6週	サロンで役立つ英会話②					
第7週	サロンで役立つ英会話③					
第8週	サロンで役立つ英会話④					
第9週	中間テスト					
第10週	「労働者とは」、労働者の保護と義務					
第11週	内定と泣いて取り消し、試用期間と就業規則、学生就活の個別サポート					
第12週	労働時間、時間外労働、割増賃金、学生就活の個別サポート					
第13週	休日・休暇、有給休暇、休憩、学生就活の個別サポート					
第14週	賃金、最低賃金、退職金、賞与、学生就活の個別サポート					
第15週	社会保険、学生就活の個別サポート					
第16週	働き方改革、ライフワークバランス、学生就活の個別サポート					
第17週	期末テスト					
3. 履修上の注意						
筆記用具を持参						
4. 使用教材(テキスト等)						
プリント教材						
5. 単位認定評価方法						
評価基準:絶対評価						
中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容						
6. その他						

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	動物健康管理学4		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)や、動物に関わる職業に携わる者として、今後関わる可能性のある基礎疾患(人獣共通感染症、部位別疾患)について理解する。それに伴い、必要となるシャンプー剤の選択や飼い主へのアドバイス方法、トリミングトラブルにおける対処法を習得する。				
◆概要	人獣共通感染症や部位別の症状、状態を把握し理解することで、自身を守るとともに、飼い主との信頼関係にもつなげる。また、実際のトリミングでのトラブルや対処法について学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	全身チェック				
第2週	人獣共通感染症 店内感染を起こす可能性のある病気				
第3週	部位別疾患学 皮膚の病気				
第4週	部位別疾患学 皮膚の病気				
第5週	部位別疾患学 耳の病気				
第6週	部位別疾患学 眼の病気				
第7週	部位別疾患学 鼻・口の病気				
第8週	部位別疾患学 おしり・腹部の病気				
第9週	中間試験				
第10週	部位別疾患学 足先・膝・腰回りの病気				
第11週	クライアントエデュケーション				
第12週	クライアントエデュケーション				
第13週	クライアントエデュケーション				
第14週	クライアントエデュケーション				
第15週	トリミングトラブルについて				
第16週	トリミングトラブルについて				
第17週	トリミングトラブルについて				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習を必ず行うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考テキスト(わかる犬の病気)					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10%					
6. その他					
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者					
教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	上條	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	基本的な犬体チェック(バイタルチェック、身体各部の健康チェック等)を 始めとし、動物の保定法や簡易的な検査(尿検査・糞便検査等)及び検体の取扱いを習得する。 また、動物の緊急時に然るべき対応が取れるよう、救急救命の心得を学ぶ。				
◆概要	基本的な犬体チェックや保定法、尿検査・糞便検査等簡易的な検査、緊急時の救命処置等の説明と実践を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	犬体チェック(バイタルチェック、身体検査)、 動物の保定法				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週	尿検査概論 正常な尿と異常な尿の違い 採尿法 検体の取り扱い 尿検査 顕微鏡の扱い方				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	前期中間試験				
第10週	糞便検査概論 正常な糞便と異常な糞便の違い 採便法 検体の取り扱い 糞便検査 顕微鏡の扱い方				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週	救急救命関連				
第15週					
第16週	前期末試験				
第17週					
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。 挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。 生体を 扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具を扱うこと。 グループでの作業が多いため一人一人が責任を持って行動をすること					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント、めざせ早期発見！わかる犬の病気					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・欠出席数10％、 試験点数70％、 授業態度(積極性、課題提出)20％					
6. その他					
講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、手技に関するコツや知識、体験談などを加えた授業を行う。 それぞれの項目で学生自らが記入することで理解が深まるような資料を作成し、それを基に授業を展開していく。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	グルーミング実習応用1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習室ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林・山崎	
科目名	グルーミング実習応用2		必修・選択	選択	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習室ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林・山崎
科目名		動物美容実習応用1		必修・選択	選択
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	トリミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師：JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林 和愛	
科目名	動物美容学3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。				
◆概要	様々な犬種のペットカット、お客様対応など、実際の現場で即戦力になる為の、知識を得る				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	顔カットについて				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週	犬種解説（A コッカー）				
第7週					
第8週	中間試験				
第9週	スピードトリミングとは？				
第10週	サロンの1日				
第11週	毛玉の話				
第12週	犬種解説ダックスフント				
第13週	犬種解説ポメラニアン				
第14週	犬種解説(シーズー・マルチーズ)				
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック ドッググルーミングブック 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験 70%					
6. その他					
講師：JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

信州松本動物専門学校 シラバス			学科コード	U2	
学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	比較動物学1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	産業動物の種類や現状、それぞれの動物の飼育目的や人間社会における役割を学習し、ペットとは異なる動物についての理解を深める。				
◆概要	産業動物(牛・鶏・豚・馬)の概要、畜産の歴史や豚について学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	産業動物の概要				
第2週	産業動物(牛) ～酪農牛・肉用牛～				
第3週	産業動物(鶏) ～採卵鶏・肉用鶏～				
第4週	産業動物(豚)				
第5週	産業動物(馬)				
第6週	畜産の歴史				
第7週	豚の祖先・生理生体				
第8週	豚の行動・感覚器				
第9週	中間試験				
第10週	豚の品種・種類				
第11週	農場における生産管理				
第12週	豚舎における飼養管理(分娩舎)				
第13週	豚舎における飼養管理(交配舎)				
第14週	豚舎における飼養管理(妊娠舎)				
第15週	子豚の飼養管理(離乳舎)				
第16週	子豚の飼養管理(肥育舎)				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師: 養豚場での分娩・繁殖管理経験者。畜産現場での経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	小林 山崎	
科目名	動物業界研究1(足回り)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	GR室・診療室他	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、基礎知識習得を計る。 動物の飼育・健康管理を責任を持って行えるよう知識・技術習得する。				
◆概要	グルーミング実習応用1で学んだ基礎知識を活かしながら、保定法・足周りカットの基礎知識を学ぶ。 学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第2週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第3週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第4週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第5週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第6週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第7週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第8週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第9週	グルーミング実習 保有動物のお世話 中間試験				
第10週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第11週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第12週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第13週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第14週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第15週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第16週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第17週	グルーミング実習 保有動物のお世話 期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 動物飼育にふさわしい身だしなみであること。(アクセサリ類、ネイルは外す) 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 常に飼育動物の状態・状況への配慮し管理の徹底をはかる。					
4. 使用教材(テキスト等)					
グルーミング道具 ノートパソコン ペットの飼養管理					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的评价(接客・トリミング) 60%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村 福澤 長瀬	
科目名	ドッグトレーニング応用Ⅰ		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第2週	インストラクターとして必要な技術の実践 学習理論				
第3週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:トイレ				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:クレート				
第6週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:社会化				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:遊び				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 家庭犬トレーニングの基礎と応用:甘咬み				
第10週	インストラクターとして必要な技術の実践 アジリティ特別講座				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動概論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
犬と猫の問題行動の予防と対応 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・中間・期末試験60%					
6. その他					
講師:JKCトリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村 長瀬
科目名		ドッグトレーニング応用2		必修・選択	必修
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。			
◆概要		学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第2週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第3週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第6週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第10週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト4巻 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価10%　・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・中間・期末試験60%					
6. その他					
講師：JKCトリマーとして、また海外における動物保護施設での経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

信州松本動物専門学校 シラバス			学科コード	U2	
学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	環境共生学		必修・選択（注記）	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		動物業界における自身の考えや行動をどう生かしていけるか、また何を習得していかなければならないのか、情報収集し理解を深めていく。コミュニケーション能力を高める。			
◆概要		自身の希望進路以外の業種においても、動物・環境との関わり方を調べ今後活かす。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ペットビュッフェ概要説明				
第2週	ペットの食について(食べてはいけないもの・注意が必要なもの・1日のカロリーなど)				
第3週	ペットビュッフェメニューテーマ検討				
第4週	鳥類学①(西先生)				
第5週	鳥類学②(西先生)				
第6週	ペットビュッフェメニュープレゼン				
第7週	鳥類学③(西先生)				
第8週	中間試験				
第9週	鳥類学④(西先生)				
第10週	ペットビュッフェ試作開始				
第11週	鳥類学⑤(西先生)				
第12週	ペットビュッフェ試作・改善①				
第13週	鳥類学⑥(西先生)				
第14週	ペットビュッフェ試作・改善②				
第15週	鳥類学⑦(西先生)				
第16週	ペットビュッフェ試作・改善③				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
動物業界におけるさまざまな職種、世界の動向など、普段から興味を持ちアンテナを張り、情報を取得するように心掛けること。挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。他学科との共同制作のため、コミュニケーションを取り、円滑に進むよう心掛けること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考テキスト(ペット栄養管理士テキストブック) ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・試験点数50％ 出席による評価20％ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30％					
6. その他					
講師：ペット栄養管理士資格保持者。ペット調理実習の経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者 小林	
科目名		飼育実習2		必修・選択 選択	
単位数		1単位	授業形態	講義・実習	年次 2年次
総授業数(予定)		17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期 前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		動物の飼育・健康管理を責任を持って行うこと、また難しいとされる体調変化の見極めや、飼い主様から求められる飼育方法や衛生管理のアドバイスが出来るように技術を身に着ける。			
◆概要		学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第17週		保有動物のお世話			
3. 履修上の注意					
動物飼育にふさわしい身だしなみであること(アクセサリ類、ネイルは外す) 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 常に飼育動物の状態・状況への配慮し管理の徹底をはかる。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30% ・論文発表 50%					
6. その他					
講師:海外における動物保護施設での経験や、問題行動解決の知識・技術を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科		担当者	小山
科目名		動物人間関係学		必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。				
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりとの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	人間と動物の関わり 動物への関心の根拠と動物観				
第2週	文学・芸術における動物との関係の歴史と日本人の動物観				
第3週	動物観の歴史の変化と比較による 欧米と日本での動物の関わりとの相違				
第4週	動物介在介入:AAI 動物介在活動				
第5週	動物介在介入:AAI 動物介在活動				
第6週	動物介在介入:AAI 動物介在療法				
第7週	動物介在介入:AAI 動物介在療法				
第8週	中間試験				
第9週	動物介在介入:AAI 動物介在教育				
第10週	動物介在介入:AAI 動物介在教育				
第11週	使役動物の歴史と福祉について				
第12週	使役動物の歴史と福祉について				
第13週	人のライフサイクルにおける動物の関わりに関する役割				
第14週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果				
第15週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果				
第16週	まとめ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
パワーポイント等による作成資料 その他					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:相対評価					
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う					
6. その他					
講師:動物病院での動物看護師としての実務経験者					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤・小林・山崎・長瀬	
科目名	卒業研究・制作		必修・選択	選択必修	
単位数	5単位	授業形態	研究・制作	年次	2年次
総授業数(予定)	85コマ	授業場所	校内各教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ペット業界に関する知識を深める。 中間試験(11月)・期末試験(2月)に研究したテーマについての発表を行う。 「調べる」・「研究する」・「理解をする」・「人に伝える」という仕事をしていく上で必要なスキルも身につける。				
◆概要	卒業論文の制作。パワーポイントを使用したのプレゼンテーション。 動物に関する疑問や興味を持ったことについて研究を行い、研究テーマの内容によって必要であれば制作物を作る。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	本論作成(研究制作)				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週	中間発表用パワーポイントの作成/練習				
第7週					
第8週					
第9週	中間発表 本論作成(研究・制作)				
第10週					
第11週	本論作成(研究制作)				
第12週	本論作成(研究制作)				
第13週	本論作成(研究制作) 結論/要旨作成				
第14週	結論/要旨作成 目次作成				
第15週	最終発表パワーポイント作成 最終発表練習				
第16週	最終発表練習				
第17週	最終発表練習 卒業研究・制作発表会				
3. 履修上の注意					
インターネット上だけの調査ではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど調査方法を工夫すること。授業中は論文作成に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守すること。授業時間内で研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはいけないこともある。前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%					
・論文発表(中間・期末) 50%					
6. その他					
中間発表会: 11月中間試験週					
最終発表会: 2月期末試験週					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・山崎	
科目名	グルーミング実習応用3		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20% ・技術的評価（接客・トリミング） 60%					
6. その他					
講師：トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師：動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林・山崎
科目名		動物美容実習応用2		必修・選択	選択
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	トリミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	トリミング実習				
第11週	サロントリマー1級資格試験 トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。 実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林・山崎
科目名		グルーミング実習応用4		必修・選択	必修
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。			
◆概要		実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。					
4. 使用教材(テキスト等)					
美容学教科書 プリント資料 トリミング道具					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%					
6. その他					
講師:トリマーとして長年従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における技術指導を中心に、接客指導等についても行う。 講師:動物看護師としての経験を生かし、動物病院におけるホスピタリティおよび皮膚病の際の薬浴等についても指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林和愛
科目名		動物美容学4		必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。				
◆概要	トリマー検定1級に向けてカットの復習や筆記試験対策を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	犬種解説パピヨン				
第2週	犬種解説ビション・フリーゼ				
第3週	犬種解説M I X				
第4週	犬種解説チワワ				
第5週	犬種解説柴・日本犬				
第6週	パピーのグルーミング				
第7週	猫のグルーミング				
第8週	クレーム対応				
第9週	中間試験				
第10週	マナー接遇				
第11週					
第12週					
第13週	検定対策				
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	サロントリマー1級検定（筆記）				
3. 履修上の注意					
講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック ドッググルーミングブック 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験 70%					
6. その他					
講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。					

学科 ＜専攻＞		ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村 長瀬
科目名		ドッグトレーニング応用3		必修・選択	必修
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標		犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。 飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。 問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。			
◆概要		学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。			
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第2週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第3週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第4週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第5週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第6週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第7週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第8週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第9週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第10週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第11週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第12週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第13週	インストラクターとして必要な技術と実践 問題行動各論				
第14週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第15週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第16週	インストラクターとして必要な技術と実践・社会貢献				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装（パンツスタイル、スニーカー）であること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本（5つの自由）を考慮して適正に扱うこと					
4. 使用教材（テキスト等）					
動物看護コアテキスト4巻 犬のしつけ学					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 ・出席による評価10％　・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30％ ・中間・期末試験60％					
6. その他					
講師：JKCトリマーとして、また海外における動物保護施設での経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物飼養管理学3(繁殖)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬猫および畜産動物(豚)の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的变化と異常分娩における助産、新生子管理や雌雄の生殖器の疾患への理解とその看護について学ぶ。				
◆概要	犬猫および畜産動物(豚)の繁殖整理 生殖器の形態と機能 雌雄の生殖器(構造・機能・生理) 繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	犬猫の純血種				
第2週	猫の遺伝について				
第3週	犬猫の発情・排卵				
第4週	犬猫の交配				
第5週	犬猫の妊娠・出産				
第6週	新生子の管理				
第7週	豚の交配について				
第8週	豚の発情誘起・発情確認				
第9週	中間試験				
第10週	フラッシングの効果と重要性				
第11週	交配環境・オス当てについて				
第12週	豚の排卵～妊娠の流れ				
第13週	豚の分娩管理				
第14週	初乳と常乳の違い				
第15週	母豚の授乳期給餌管理				
第16週	子豚の分娩管理				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
愛犬の繁殖と育児百科 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。					
6. その他					
講師:養豚場での分娩・繁殖管理経験者。畜産現場での経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林・長瀬・山崎	
科目名	総合実習4(ペットビュッフェ・DT)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物業界における自身の考えや行動をどう生かしていけるか、また何を習得していかなければならないのか、情報収集し理解を深めていく。コミュニケーション能力を高める。				
◆概要	自身の希望進路以外の業種においても、動物・環境との関わり方を調べ今後に活かす。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ペットビュッフェ最終試作				
第2週	ペットビュッフェメニュー完成				
第3週	ペットビュッフェ完成プレゼン				
第4週	食品表示作成・商品名決定				
第5週	POP作成				
第6週	学校公開日振り返り				
第7週	ペットビュッフェまとめ				
第8週	振り返り・まとめレポート作成				
第9週	中間試験				
第10週	検定試験対策				
第11週	検定試験対策				
第12週	検定試験対策				
第13週	検定試験対策				
第14週	検定試験対策				
第15週	検定試験対策				
第16週	検定試験対策				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
動物業界におけるさまざまな職種、世界の動向など、普段から興味を持ちアンテナを貼り、情報を取得するように心掛けること。挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。他学科との共同制作のため、コミュニケーションを取り、円滑に進むよう心掛けること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考テキスト(ペット栄養管理士テキストブック) ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・試験点数50% 出席による評価20% 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%					
6. その他					
講師: ペット栄養管理士資格保持者。ペット調理実習の経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	山崎	
科目名	動物業界研究2（住環境）		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目			実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	飼い主からの相談内容に住環境が影響していないかどうかを判断するツールとして、また、住環境が影響している場合に、解決に向けてアドバイスできるようになる				
◆概要	ペットの本来の習性を理解し、ペットの個性に合わせた住環境の作り方や共生住宅等について学ぶ				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	犬猫の習性を理解する 犬や猫を飼うことで起こりえるトラブル トラブルを回避する方法				
第2週	環境変化によるストレス 模様替え等による弊害 リフォームする場合の注意点				
第3週					
第4週	抜け毛の処理 排出物への対策 においへの対策 衛生管理を怠ることによる健康被害 近隣トラブルを避けるための配置や工夫				
第5週					
第6週	一人暮らしを想定した住環境整備 小さな子どもがいる家庭を想定した住環境整備 高齢者世帯を想定した住環境整備				
第7週					
第8週					
第9週					
第10週	部屋の向きと日当たり 部屋割りを考える 犬と猫のための部屋づくり				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週	在宅中の被災に備える 飼い主の外出中の被災に備える 災害リスクを考えた住環境整備				
第15週					
第16週	試験対策				
第17週	犬猫住環境コーディネーター試験				
3. 履修上の注意					
事後学習を行うこと					
4. 使用教材（テキスト等）					
犬猫住環境コーディネーター					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）20%					
・試験点数 70%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	動物業界研究3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	長野県内にある動物園・水族館を視察し、各園館の展示の特徴や違いを観察し、野生動物の福祉、環境エンリッチメントをについての理解を深め、未来の動物園・水族館のあり方を・考察する。				
◆概要	長野県内10ヶ所の動物園・水族館を視察し、各園館の飼育動物・展示方法・環境エンリッチメントについて学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学外研修の概要・目的・長野県内の動物園・水族館について				
第2週	2025年6月14日(土) 松本市 アルプス公園				
第3週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第4週	2025年7月5日(土) わくわくどうぶつ王国				
第5週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第6週	2025年8月1日(金) 国営アルプスあづみの公園 水族館				
第7週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第8週	学外研修中間レポート				
第9週	中間発表				
第10週	2025年10月4日(土) 須坂市動物園				
第11週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第12週	2025年12月13日(土) 大町岳陽博物館付属園				
第13週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第14週	2026年2月21日(土) 城山動物園				
第15週	※事前学習レポート/振り返り・まとめ				
第16週	学外研修総括レポート				
第17週	期末発表				
3. 履修上の注意					
※現地集合現地解散(公共交通機関利用)					
◆訪問前・・・事前学習レポートで視察する動物園・水族館について調べる					
◆訪問後・・・実際に見聞きした内容をまとめる					
課題は提出期限を守ること					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物園水族館研修日誌					
補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
試験発表50% 出欠席数 10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等30%をもって評価とする。					
6. その他					
講師: 講師:海外における動物保護施設での経験や国内外の動物園・水族館の視察経験を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	小林	
科目名	学外実習1		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	診療室他	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標					
◆概要					
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週					
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
動物飼育にふさわしい身だしなみであること(アクセサリ類、ネイルは外す) 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 常に飼育動物の状態・状況への配慮し管理の徹底をはかる。 動物業界におけるさまざまな職種、世界の動向など、普段から興味を持ちアンテナを貼り、情報を取得するように心掛けること。 他学科との共同制作のため、コミュニケーションを取り、円滑に進むよう心掛けること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン ペットの飼養管理					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 30% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)70%					
6. その他					
講師:海外における動物保護施設での経験や、問題行動解決の知識・技術を活かし、授業を実施する					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	小林	
科目名	総合演習2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。